

## スギ・ヒノキサシ木苗の生産性向上に関する研究

- ヒノキ少花粉品種の成長比較 -

令和3年度～令和5年度  
森林チーム 松本 純

## 1. 目的

林野庁は花粉発生源対策の技術的助言等をまとめた「スギ花粉発生源対策推進方針」の中で、令和14年度までに花粉症対策に資するスギ苗木の年間生産量に占める割合を約7割に増加させることを目標としている。また、ヒノキについても花粉の少ない森林への転換等の推進に際して本方針を参考に取り組みものとしており、成長データ等の継続的な情報収集が求められる。

本研究部ではヒノキ少花粉品種の増殖を目的とした採穂園内の品種について成長量調査を実施したので今回報告する。

## 2. 調査地及び方法

調査対象は、林業研究部内の採穂園に平成31年3月に植栽したヒノキ17品種（接ぎ木苗）である（表-1）。4年生における調査は令和4年1月に実施し、樹高と根元径を測定した。

## 3. 結果

4年生の平均樹高は始良45号が最も高かった（図-1）。形状比の平均値は樹高によらず60程度の品種が多く（図-2）、成長のよい品種での徒長は確認されなかった。

今回、樹高成長に品種間差がある傾向が認められたが、各品種の調査本数が少ないことに加え、接ぎ木苗という性質上、根元径の成長並びに根系が品種本来のものと異なることから詳細について引き続き検証を進める予定である。

表-1 4年生ヒノキ少花粉品種の概要及び調査結果

品種	測定本数 (本)	平均樹高±SD (cm)	樹高最大値 (cm)	樹高最小値 (cm)	平均根元径±SD (mm)	平均形状比
南高来2号	3	91.3±7.4	101	83	11.3±1.0	80.9
阿蘇6号	4	96.3±27.9	140	70	17.1±5.8	57.7
阿蘇3号	3	102.0±20.5	131	86	13.7±0.8	74.2
九育2-150	14	102.3±25.7	146	62	15.9±3.5	64.0
諫早1号	8	107.8±33.1	164	62	18.7±7.4	60.7
東臼杵3号	3	112.5±36.0	163	82	18.7±5.2	59.8
始良29号	2	116.5±14.5	131	102	18.0±2.2	64.7
南高来10号	4	125.8±24.4	158	91	16.7±5.3	79.1
浮羽14号	5	131.8±21.2	154	103	18.6±3.1	71.3
藤津4号	3	136.3±32.4	181	105	23.1±6.7	59.8
阿蘇11号	5	137.2±30.0	182	95	25.9±7.8	55.2
藤津3号	5	138.0±28.3	179	105	22.8±6.1	62.1
北諸方2号	4	140.3±27.6	163	93	24.3±4.7	57.8
始良4号	4	150.8±20.8	169	116	24.2±5.3	63.6
遠賀1号	3	157.0±29.2	186	117	25.2±5.0	62.6
中津10号	5	160.0±38.0	205	103	25.3±9.8	68.1
始良45号	5	200.6±47.0	270	138	33.4±8.9	60.9

※SDは標準偏差を示す。

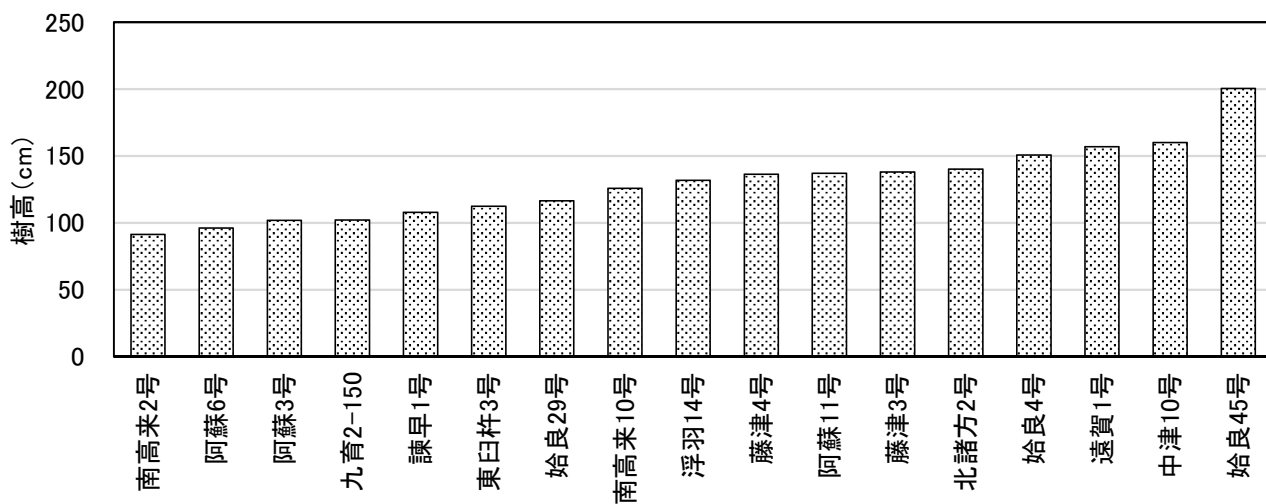


図-1 4年生ヒノキ少花粉品種の平均樹高

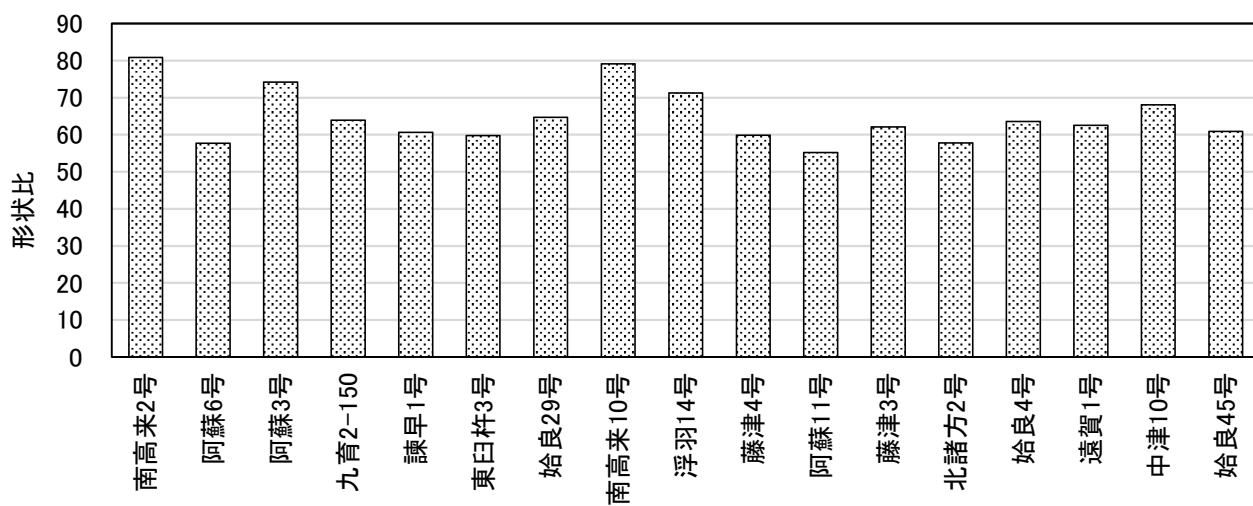


図-2 4年生ヒノキ少花粉品種の形状比



写真 始良45号